

肌に優しい

## アレppoの石鹼 で夏に日焼けをする前からお手入れをはじめましょう！！

シリアの都市のアレppoでは、紀元前300年から石鹼作りが行われています。その名は、【savon d'Alep、laurel soap、Syrian soap、ghar soap】などと呼ばれ、日本でも完全無添加の【アレppoの石鹼】として隠れた人気を誇っています。

エジプトのクレオパトラも使ったといわれるこの石鹼の素材は、オリーブオイル、灰汁、月桂樹から抽出したローリエオイルから構成されています。

伝統的な製造方法を紹介しましょう。遠い昔から変わらぬ製法は『ホットプロセス』と呼ばれ、大きな鍋に水、シリア産のオリーブオイル、灰汁を3日間煮立たせる伝統の釜たき製法で、手間暇かけて作られています。水と灰汁がオイルと反応して、粘度のある石鹼になってゆきます。工程の最後にトルコ産のローリエオイルを加え、鍋から降ろして、ワックスペーパーの上に流し込みます。この時点ではどろっとした緑色の液状で、固形になるのに1日要します。

これらを四角い形に切っていく、棚に並べて風通しを良くして乾燥させます。その後、特別な地下室で6カ月から1年以上の日々を重ねて、熟成させます。熟成期間中に、石鹼が化学反応を起こすのですが、鹼化する際に残っていたアルカリ性の成分が少しずつ壊れてゆき、石鹼自体が固くなって長期保存が出来るようになります。内側は緑色が残り、外側は鈍い金色(薄い茶色)に変化してゆきます。

20世紀になると『コールドプロセス』も開発され、ハーブやエッセンシャルオイルなどを加えることもできるようになりました。生産時期は、12月から3月の間の年1回のみです。



アレppoの石鹼を扱っているお店もありますが、ネットで検索するとあらゆる種類が表示されます。ローリエオイルの配合率は全体の2%から20%、さらに40%というものまであります。このオイル成分の配合量の差で、使用後の肌の感じが全く違うのを実感するかもしれません。肌が非常に弱い筆者は、3種類のアレppo石鹼を試してみました。右上の写真に3つ並んでいますが、向かって左側がローリエオイル12%、真ん中はオリーブオイルのみ、右側はローリエオイル40%のものです。

色を見ても分かるように、オリーブオイルだけのものは、緑色部分がなく、ナイフできれいに切るのも難しい固いものでした。どれが良いかは、その人の肌タイプによるでしょう。私自身は、12%が一番肌に合っており、洗顔後も肌がしっとりとしています。髪の毛も洗えるとの謳(うた)い文句がありますが、個人的には慣れたシャンプーの方がいいかな…、と石鹼での洗髪はしていません。



シリア・アレppoと言えば、戦争が続いているところです。果たしてこの石鹼が今でもアレppoで作られているのか、それとも伝統製法を使って他の場所で製造を続けているのか、パッケージを見ただけでは分かりません。自分の目で見に行きたいですが、現在のシリアを訪れる勇気はないので、製造場所は謎のまま使っている次第です。テレビのニュースでは、「爆撃にも負けず、我々はここで伝統の石鹼を作り続ける」と話す街の人々を紹介していました。また、シリアの他の都市やトルコで生産を続けているともいわれています。

筆者の顔肌のコンディションは非常に敏感で、ほとんどの石鹼で荒れてしまうので、某社のものをわざわざ日本から輸入していました。それが、アレppoの石鹼の素晴らしさを知り、もう、この石鹼しか使えないと思うくらいです。赤ちゃんや年配の方にも安心して使っていただけます。内戦にも負けず伝統を守り続けるアレppo市民を応援するためにも、ぜひこのスキンケアのアイテムである「アレppoの石鹼」をお試しください。

まれにアレルギー反応を起こす場合があります。肌の弱い方は、一度アレppo石鹼を使って洗顔し、10分くらい泡立てたままにして、その後しっかり洗い流します。肌が赤くなったり、痒くなったらすぐに水で洗い流しましょう。その後、1日様子を見て、問題がなければご使用ください。使用を重ねても突如反応することもあります。この場合も、すぐに使用をやめましょう。

まれにアレルギー反応を起こす場合があります。肌の弱い方は、一度アレppo石鹼を使って洗顔し、10分くらい泡立てたままにして、その後しっかり洗い流します。肌が赤くなったり、痒くなったらすぐに水で洗い流しましょう。その後、1日様子を見て、問題がなければご使用ください。使用を重ねても突如反応することもあります。この場合も、すぐに使用をやめましょう。